



# こうべ森の学校だより

No.96  
2021年3・4月号

発行人：こうべ森の学校 編集委員会

発行所：神戸市北区山田町下谷上中一里山 4-1

神戸市森林整備事務所内

Tel: 078-371-5937 Fax: 078-371-1087

## 代表就任のご挨拶 2021年度の森学活動について



本年度から2年間、代表を務めることになりました。よろしくお願いたします。

2020年度は新型コロナに振り回され、ログハウスの市民開放中止、森学も計画した活動のほとんどは実施できないまま終わってしまいました。2021年度には収束に向かうのではと期待しましたが、変異株を加えコロナは勢いを増しています。高齢者が重症化しやすいとの報道や「不要不急の外出を控えて」の抽象的な自粛要請の繰り返し、会員の皆様の不安も大きいことと思います。

(コロナ禍、この一年の振り返り)

当時はまだまだ得体のしれないコロナウィルスへの不安と神戸市の方針を受け、昨年4月から6月中旬まで活動を完全停止致しました。6月中旬から自主的なコロナ対策を定めて平日活動を再開。11月には会員限定で月例会も再開し現在に至っています。もちろん私たち運営スタッフにも常に「開催時の感染不安」は付きまっています。

(コロナ禍、今年度活動への考え)

森の保全活動を事故無く安全に進めるには一人ではできません。参加者頂く方と運営スタッフが必ず必要です。

私個人としては高齢者の会員が比較的多い森学だから活動の門戸を閉じるべきではないと考えています。私も高齢者です。老若男女、コロナ感染の不安。だから、家に閉じこもっていたらどんどん心身の衰え(コロナ鬱とかフレイル)が加速していきます。高齢者に限らず、行く場所、行ける場所が必要です。

私たち森の学校の活動は、決して不要不急なことではありません。「生物の多様性を含めて未来の森の健全さ」を維持する大切な仕事です。給料こそもらいませ

こうべ森の学校代表 佐藤憲一

んが責任をもって取り組む立派な仕事です。加えてリクリエーション、フレイル防止というお土産もつてきます。

従って、コロナ禍でも運営スタッフの方々のご協力が頂ける限りは、活動は継続していきたいと考えています。運営スタッフ一同、コロナ感染防止に最大限の注意を払って進めていきます。ご協力よろしくお願いたします。

活動参加時は、正しいマスク着用、手指消毒、ソーシャルディスタンス、昼食時黙食、室内での定期的換気は必須。

特に、昼食時の会話は要注意。「マスク」の一言でも結構です。お互い遠慮なく注意しあってください(森の保全作業について：安全第一「めんどくさいが事故のもと」)

事故の原因は見えています。不確かな知識と不確かな技術です。運営スタッフは座学や実地研修を重ねています。それでも短い活動時間の中では一から安全マニュアル通りに実践することは簡単ではなく、マニュアル一部省略ということもできます。それは、やらなければと分かっている、めんどくさいからです。見えない敵はそこにあります。そこで、前代表の安全第一の標語「めんどくさいが事故のもと」を踏襲します。

事故を起こせば、自身も周りの人も森学も大きなダメージを受けます。場合によっては活動休止ということにもなりかねません。会員の皆さん、スタッフの皆さん、ちょっとした「めんどくさい」をなくしていきましょう。

コロナの収束が見えない中、窮屈な活動の継続となります。コロナ後の自由に動ける未来に向かって取り組んでいきます。平日活動も含めて、会員の皆様のご参加をお待ちしています。

## 役員を拝命

木下 英吉



2年毎にスタッフ互選で、役員の改選をしているところですが、4月より、7役員の事務局長を任命されました。森学活動にかかる、実務的な総括を担います。

私が森学に入ったのは、2013年1月例会からです。折しも創設10周年を迎える年で、新聞に活動紹介が掲載されていたのが、きっかけです。

その頃は、2011年9月台風12号で被害の奈良県十津川村で、傷んだ山道(生活道)の道普請に、月2日のペースで通っていました。

“山の作業をもっと知りたい”との想いで入り、先輩方の指導の下、自然の環境に身を置きながらの作業、8年が経ちました。

今はコロナ禍で、色々な面に気遣いしながらの活動となっています。その中で会員皆様が、安心・安全な活動に取り組んでいただけるよう、役員・スタッフ一同努めてまいりますので、よろしく願いいたします。

## 退任のご挨拶

旧代表 藤原恒夫



2期4年間満了をもって、この3月で役員を退任しました。多々至らぬ点ありましたが、役員並びにスタッフの協力、サポートによって大過なく務められたこと、感謝申し上げます。最後の一年は新型コロナウイルスに翻弄されて

しましたが、非常時の組織運営においては多く勉強させて頂きました。また、この4年間に森学ホームページ内にブログ開設してもらい、日々の活動、再度公園周辺の様子を300回余りアップしてまいりました。活動中、前後、デジカメで色んなものを撮りました。家へ帰って画像一枚に絞って短文を考えます。いいネタに仕上がった時は嬉しいものです。自分で言うのも何ですが、私はこのブログを書くことによって観察眼が養われて来たと感じています。それは、森の学校を超えて日常生活にまで及んでいます。ものを見て感じるだけでなく、言葉にすることによって脳が更に活性化されるようです。ワシはまだまだボケまへんで！

## ご挨拶

松崎 益子



二年程前からでしょうか、毎週再度山を訪れるようになっていました。

沿道の桜や湖畔の紅葉に見とれ、孫と”くもの巣(のネット)”に上がって跳ねて大笑いしたり。

そのうち私は、とりわけこの修法が原池を前にして過ごすのが好きになりました。



亀の甲羅干し

ある時は、亀が大きいのも小さいのも次々と集まって足元に上ってこよとしたことがありました。

かと思うと、色とりどりの鯉がいつの

まにか集まっていて右へ左へ泳いでは戻って来るのでした。

またある時は、カワウが砂の上で黒い羽根を広げたり閉じたりくるりと踊ったかと思うと、水面を真っ直

ぐに走り抜け(本当に水面を走りました!)て、ふわっと空高く飛び立ち上空を旋回して去ったこともありました。



紅葉が映える修法が原池

冬場は小鳥たちが耳も楽しませてくれました。

青空に映える木々、木々を通り抜ける風、風と光を浴びて刻々と輝く水面。そこにはかつて自分と違う自分がいました。この心地よい場はどなたかが支えて下さっているから。ある時お掃除している方を見て、私にも何かできるのではないかと思いました。

かくしてこの二月「森の学校の新入生」になったのでした。

三月、何故か突然和歌を詠むようになりました。ここで二首ご披露させていただきます。

「宇宙(そら)からの風が頬まで小枝まで 湖面は光る星雲のごとく」

「湖に向ひて祝詞(のりと)唱ふれば 松でツツツとつづくコゲラよ」

## この非日常が楽しい！

大沼 和世

「こうべ森の学校」(以下「森学」)のスタッフのお仲間に加えて頂いて、3年くらいになるでしょうか。山登り・山歩きが好きで、歩きに行きたくなると、手っ取り早いコースが、ポーアイの自宅から歩いていく再度公園。風楽山荘で、「森学」のチラシを見つけた時から、森林ボランティアをやりたいなあと思っていたのです。

縁あって、参加させて頂くようになり、細々とした参加状況ではあります。都合がつく日は楽しみに「登校」しています。

屋外で体を動かすことが好きで、「森学」では、体を単に動かすだけではなく、微力ながら森の手入れができて、少しは役に立っているかなと思うと、やりがいもひとしおです。

また、普段は、PC や資料等活字を追う事が多いので、車から再度公園の駐車場に降り立った時の森林のいいに

おいと、四季折々変わる景色、小鳥のさえずりがとても楽しみです。

加えて、何ととっても、ヘルメットをかぶり、二丁拳銃よろしく、ノコギリ、鉋、枝切り鋏を腰からぶら下げて、「森学」ののぼりを持って歩くなんて、もう最高!! 私はすっかり、この「扮装」が大のお気に入りに。この落差、非日常がたまりません。

「森学」では、顔に塗った日焼け止めさえ、汗ですぐ剥げて、風呂上がりのような汗の滴るすっぴんに慣れ親しんで頂いています。優しい森学のレギュラー、スタッフの皆様、「森学」二丁(三丁?)拳銃は仮の姿です(笑)。

街中では、赤やピンクを着て、イヤリング大好き、パンプスを履いて歩いていますので、すれ違ったら、どうぞ私に気づいて声をかけて下さ〜い♪。微力ながら、今後ともよろしくお祈りします。

## 森の保全グループより



2021年度の活動地区(例会及び平日活動)を変更します。現行地区は森学活動のアピールも兼ねて再度公園周辺、ハイキング道沿いでやって来ましたが、ほぼ整備も一巡しました。

今後はもっと奥へ入って、本来の目的(荒れた森の手入れ)に向けて活動します。体力的、技術的に不安のある方には、近場で適切な場所も提供出来たらと考えています。

その中で、ここの森を何とかしたい、して欲しい場所があればスタッフに申し出てください。一緒に考えて行きましょう。

## 岡本桜回廊を巡るお花見ハイク



森稲荷神社でのショット

4月3日(土)「ほくら〜ととや森の世話人倶楽部」・「フォレスター松寿」との共催による「第6回岡本桜回廊を巡るお花見ハイク」が開催されました。

JR 甲南山手駅を起点として森稲荷神社から魚屋道と神戸薬科大学尾根の2コース12班に別れて保久良神社に至る3時間程度のお花見ハイクをしました。

自然観察会では講師の説明に耳を傾け、熱心にメモを取る方、質問をされる方がおられ、関心の高さが伺えました。「保久良夢ひろば」で昼食休憩時のミニコンサートでは、サクソとボーカルのMASAXさんとギターの相川聡さんのライブを堪能しました。

引き続き山と高原地図「六甲・摩耶」の踏査・著者でもある白馬堂六甲の浅野晴良さんの司会進行で景品



好評だった自然観察会

付ジャンケン大会を実施しました。

天候に恵まれ、こうべ森の学校のメンバーを含めて157名が参加され、無事にお花見ハイクを終える事が出来ました。

今回、県立東灘高校ボランティア同好会から大勢の高校生のご参加もあり、「六甲山でつなげる!」との思い「サクラこみゅにけーしょん」が、これからの社会の担い手である若い世代に、届き出したようで嬉しい限りです。

## 恒さんの気まぐれ読書あんない

藤原 恒夫

2月にNHKスペシャルで『2030 未来への分岐点』という番組が3回に分けて放送されました。観られた方もおられると思います。国連が2015年にSDGs（持続可能な開発目標）という世界共通の2030年目標を定めました。今回の読書案内は2030に焦点を当ててみました。夫馬賢治著『データでわかる 2030年 地球のすがた』日経プレミアシリーズを紹介します。世界はここ10数年、毎年のように数10年に一度と言われる異常気象を経験しています。そして人々は徐々に漠然とした不安を抱える様になっています。この本は、環境問題、社会問題を現実のデータから実情を理解しようとする内容になっています。「気候変動」「農業」「森林」「水産」「水」「感染症」「パワーシフト」「労働・人権」の8分野について書かれています。

我ら森林ボランティアにとっては「気候変動」「森林」がすぐ結びつきます。「農業」は気候変動に大きく左右されます。今、気になる「感染症」も気候変動と関係があります。こう見てくると気候変動はどこかで一気に世の中を変えてしまう気がします。



## 東お多福山草原保全・再生研究会からのお知らせ



東お多福山草原保全・再生研究会では、管理区域を1年かけて複数回に分けて刈り取る活動をしています。刈り取り活動では鎌や刈り込み鋏で草を刈ったり、刈り払い機で刈り倒した草を集積したりします。

班を編成してリーダーの指示のもとで活動しますが、ご自身のペースで作業できます。調査班は草花に詳しい人を中心に編成しています。植生を勉強しようと思う人は調査補助員として、筆記だけの人は記録員として、参加いただけます。いろいろな参加形態がありますので、気楽に参加をご相談ください。

こうべ森の学校の会員はログハウス「風楽山荘」の掲示板に張っている参加申込書に記入してください。

### 令和3年度(2021)の保全活動(草原の刈り取り)

令和3年 4月17日(土)	予備日 4月24日(土)	春の全面刈り
令和3年 5月19日(水)	予備日 5月26日(水)	春のモニタリング及びササ刈り
令和3年 7月14日(水)	予備日 7月21日(水)	夏のササ刈り
令和3年 9月29日(水)	予備日 10月6日(水)	春のモニタリング及びササ刈り
令和3年 11月27日(土)	予備日 12月4日(土)	秋の全面刈り及びススキの収穫
令和3年 12月11日(土)	予備日 12月18日(土)	冬の全面刈り その1
令和4年 2月26日(土)	予備日 3月5日(土)	冬の全面刈り その2



### ■お知らせ・掲示板

♠こうべ森の小学校 & 森のようちえん

♠摩耶の森クラブ

(活動日の問い合わせは、神戸市森林整備事務所に)

♠ボランティア保険に加入していますか

森の手入れの作業中の事故に備えて「兵庫県ボランティア・市民活動災害共済保険」への加入手続きをされていますか。掛け金は500円の負担で補償期間は4月1日から翌年3月31日までです。受付窓口はお住まいの市区町社会福祉協議会です。

### 会員活動の開催予定日

・月例会 5月8日(土)・6月20日(日)

午前中は全員で森の手入れを行います。午後は自然観察・木工・苗作り・森の手入れから選択をしていただきます。

・上記以外の火・木・土曜日も活動しています。

「こうべ森の学校」は、発足当初から物心両面にわたり伊藤ハム株式会社の社会貢献活動の支援を受けて運営されています。